

令和3年度 学校評価総括表 伊丹市立 花里小学校

教育目標		強く やさしく たくましい 花里の子の育成 ～自分を愛し、自分に自信がもてる 人間性豊かでたくましい児童の育成をめざして～					
重点目標		①自分を大切にし、人を思いやる心とたくましい体の育成 ②聞く、話す、読む、書く力を育て、表現力を高める。 ③生きる力の育成 ④地域に学び、地域に関わった学校づくり					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学力的向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・少人数指導やTTなど多様な授業形態を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ・チャレンジタイムを有効活用する。 ・朝学習の徹底と内容の充実を図る。 ・CRT調査を行う。 ・全ての教員が年1回以上授業を公開し、研修する。 ・子どもの実態に即した課題を出す。	・アンケートで「授業がわかりやすく、楽しい」と回答した割合が80%以上になる。 ・毎日の宿題を全員が提出する。	A	児童アンケートでは、「学校の授業はわかりやすく、楽しい」と回答した児童が87.5%と、目標を達成している。 また、保護者アンケートでも、「学校の授業を通して、学力が伸びている」86.7%、「学校は、授業をわかりやすく工夫している」89.4%という回答であった。 今年度も、学団ごとで学力向上プランの見直しを図り、①個別指導の充実②朝学習の徹底③家庭学習の充実を三本柱に、基礎基本の定着を図るためCRT調査を行った。毎年CRT調査を行い、個々の学力を詳しく把握していく予定である。	来年度も今年度同様に、少人数指導、TT、教科担任制など多様な授業形態を取り入れ、子どもたちに分かりやすい授業、基礎基本の定着が図られるよう取り組んでいく。 他学年や専科の教員と連携し、教師同士がお互いを高め合う機会を増やすことで、授業づくりの工夫をしていく。 学力向上の三本柱を軸に、基礎基本の定着、学力の底上げを図っていく。今年度初めて、基礎基本の定着を図るためCRT調査を行った。毎年CRT調査を行い、個々の学力を詳しく把握していく予定である。	・アンケートから何ができて何ができていないのかを分析して次年度に反映し、継続して取り組んでおり、目標値の達成などの成果をあげていることは評価できる。 ・教師同士が互いに高め合う機会を増やす等、教師の姿勢に意欲が見える。 ・CRT調査は良い取組だと思うので、結果を効果的に活用できるように期待したい。
	自ら学び自ら考える力の育成	・一人ひとりに確かな力をつけ、表現力を高める。 豊かに表現できる思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。	・ワークシートや振り返りで考えの深まりが見られる。 ・1週間の読書時間、合計70分以上を達成する。(図書・朝読含む)	B	研究テーマに沿って、思考ツールを用いた意見交流を中心とした授業づくりに学校全体として取り組めたが、豊かに表現できる児童とそうでない児童に差があることが課題である。 学校司書による学年に応じた本の紹介や、花里読書まつりの開催などを行ったが、読書時間が70分以上と回答した児童が34.6%であった。30分未満と回答した児童が23.2%であることが課題である。	来年度も思考ルーツを活用した研究を進める。より授業のねらいにせまる思考ツールを適切に選択して、研究を進める。 読書に親しむ児童を増やすために、読書まつりや学校司書による本の紹介など、本に親しむ活動をさらに充実させていく。	・授業での意見交流はコロナ禍で制限がある中で大変だと思うが、自分の意見を持ち表現する力を育成することは大切なことなので、取組の充実を期待したい。 ・読書時間が減っているため、親子での読み聞かせ時間を持つ等の啓発も必要である。 ・読書の目的が分からない児童が多いように感じる。思考ツールも読書も、その意味を教えて取り組むことが大切である。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習(自主学習を含む)を定着させる。	・各教科に合わせてiPadやモニター等のICT機器を有効活用する。 ・3年生から自主学習に取り組ませる。 ・各学年に応じた「家庭学習の手引き」の配布と、自主学習の内容を紹介する等の工夫を行う。 ・家庭学習や生活に関する振り返りのアンケートをPTAと連携して行う。	・月10時間以上活用することを目標とし、効果的な活用方法の研修や情報交流を行う。 ・学年×10分+20分の宿題(自主学習を含む)に取り組めるようにする。	B	全学年、月10時間以上、授業内容や児童の実態に合わせて活用できた。昨年度導入されたiPadの活用についても、効果的な活用方法の研修会を開き、積極的に活用することができた。学級閉鎖などの場合にも、すぐにオンライン授業や課題配信・提出などを行うこともできた。 年度初めに全家庭に「家庭学習の手引き」を配布し、教科の指定や具体的な手順を提示することにより家庭学習の習慣づけを図った。また、自主学習の具体例を紹介し、子どもたちの取り組みのヒントとした。「家庭学習の時間が60分以上」と回答した児童は32.1%であり、「家庭学習の時間が30分未満」と回答した児童が24.5%いることは課題である。	グループでの話し合いや、ICT機器を活用していくことにより、子どもたちが主体的に授業に取り組むことができるように工夫していく。 来年度も引き続き「家庭学習の手引き」を配布し、家庭への啓発を進め、学習習慣づくりに取り組んでいく。また、「学力向上プラン」をもとに、支援が必要な児童に対しては、個別に具体的な指導をしていく。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む	・自尊感情、自己肯定感を育成する。 ・学級作りを工夫する。(支持的風土作り)	・子どものがんばりを学校と家庭で連携して認めていく。 ・学級の中で自分の意見が安心して言い合えるような雰囲気作り(クラス作り)を進めていく。	A	「自分にはいいところがある」64.8%、「がんばったことをほめてくれる」85.5%で概ね目標を達成している。 「自分を大切にすることや他人への思いやりについて学んでいる」88.7%と目標を達成している。	来年度も引き続き、学校行事だけでなく、日頃から児童のがんばりを認め、自尊感情を高めていきたい。子どもたちの頑張りを認めることで、子どもに自信を持たせる。委員会やクラブ活動などを通して、全職員で子どもたちの様子を見守っていく。 自尊感情や自己肯定感を高めていくために、学校での個々の子どもの居場所がある支持的風土のある学級づくりに、学校をあげて取り組んでいく。	・目標値をほぼ達成できていることは評価できる。学校や家庭で大人(教員・保護者)の良い背中を見せていることも成果の要因と考える。 ・自分を知ることや深掘りすることは小学生の時に重要である。自尊感情を育てるため、①子どもが活躍する場を増やす②自己分析の実施等も効果があると思う。
	生徒指導	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	・いじめ等に関する実態把握のためのアンケート調査を実施し実態把握を行い、はやく対応を行う。	A	児童アンケートの「学校に来るのが楽しい」の回答は87.4%、また保護者アンケートの「楽しく学校に行っている」の回答は90.8%という結果で、目標は概ね達成している。しかし、学校に来ることが楽しいと言えない児童が12.6%いることや、新型コロナウイルスの影響を受けて休みがちになる児童も増えつつあることは課題である。	学校での個々の居場所がある、支持的風土のある学級づくりに、学校をあげて取り組んでいく。	・児童の世界は児童しか分からないが、学校はいじめ等の実態把握のアンケート等、異変に早く気づけるよう取り組んでいくことも評価できる。 ・学校に来るのが楽しいと言えない児童が増えつつあるのは気がかりである。保護者の考え方も多様になっており、伊丹市全体で支援を必要とするものではないか。 ・学習面で心配な児童の支援は引き続き取り組んでほしい。
	健やかな体づくりの推進	・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。	・花里元気アップ運動を推進する。 ・睡眠、栄養、運動、休養などのバランスのとれた健康的な生活習慣を身につけさせる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。 ・食に対する指導を充実する。 ・感染症感染防止対策の徹底。	・週1回クラス全員で運動場に出て、体を動かす。 ・夜は10時までに寝て、朝は7時までに起きている児童が75%いる。 ・朝ごはんを食べてくる児童が90%以上いる。	B	外遊びや元気アップ運動などの取り組みにより、体を動かす習慣は身につけている。 食に関する指導や、保健便だよりなどで健康な生活に関する呼びかけを行ったが、「早寝・早起きを心がけている」が72.3%、「朝ごはんを毎日食べている」が88.7%と目標を少し下回った。	健康な生活を送ることの大切さについて、児童だけでなく保護者にも呼びかけを行い、健康な生活に関する充実を図っていく。 健康な生活に関する手紙などの配布の際や風邪などの流行の季節の際には、教師が一声かけ、児童に意識付けしていく。
開かれた信頼される学校	開かれた学校作り	・積極的に学校情報を発信する。 ・授業参観を実施する。 ・学校だよりを月2回発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを月2回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。	・アンケートで「学校の様子や目指しているものなどを分かりやすく伝えていく」と回答した割合が80%以上、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が75%以上になる。	A	新型コロナウイルスの影響で例年通りの授業参観ができなかったが、学校だよりの発行や学校ホームページを積極的に更新するなどして、学校情報の発信に積極的に取り組んだ。 「学校の様子や目指しているものが分かりやすい」91.3%、「学校は保護者の願いに応えている」84.4%と目標を達成している。	来年度も継続して、学校の様子を保護者や地域の人々に伝えていくようにする。 また、保護者と共に、児童をよりよい方向に伸ばすように努力していく。	・コロナ禍で授業参観・懇談会が実施できなかったのは残念であった。 ・学校だよりやホームページ等で児童や学校の情報が詳しく発信されたのは良かった。 ・今後は、Google class roomでの発信力を高めてほしい。
	安全安心な学校づくりの推進	・子どもたちの危機対応能力や災害の状況に応じた対応力を育てる。 ・学習環境の管理・整備を徹底する。	・登校指導(月1回)を行う。 ・防災訓練(火災1回、地震1回)を実施する。 ・防犯訓練(不審者)を実施する。 ・学校で学んだ防災意識を家庭に返すよう促す。 ・安全点検を行う。(月1回) ・感染防止対策として、環境消毒の徹底。	・アンケートで「訓練や学習を通して、災害が起きた時にどうすればいいか考えている」と回答した割合が80%以上、「家族と災害時の対応の仕方について話しあっている」と回答した割合が65%以上になる。 ・アンケートで「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。	B	新型コロナウイルス対策のため、例年通りの訓練ができなかったこともあったため、事前・事後指導を入念に行った。「災害時にどうすればいいか考えている」84.9%と目標を達成できたが、「災害時にどうすればいいか家族で話し合っている」57.2%と目標を下回った。 「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した保護者は89.4%と目標を下回った。	来年度も防災・防犯訓練の指導を高め、家庭でも話し合ってもらえるよう引き続き呼びかけていく。 安全点検の結果から、整備の必要な場合には早急に対応する。施設設備に関しては、PTAと連携しながら取り組んでいく。

**学校関係者評価総括**  
 ・コロナ禍で教育計画が思う通りに進行できない中、各項目とも、まずまずの成果を上げることができた。  
 ・子どもの居場所となる学級作りや学力向上の取組等、教員の姿勢に意欲が見られる。学力向上は全国との差を縮める方策に引き続き取り組んでいただきたい。  
 ・学校行事等に制限がある中で学校・保護者・地域住民が工夫して、小学校での思い出ができるように、地域での見守りや支援活動に協力したい。

**次年度に向けた重点的な改善点**  
 ・コロナ禍で対話やつながりが減ったことが将来に影響しないように願い、一人も取り残さない心で誰も置き去りにしないように、学力や自尊感情の向上を目指す。  
 ・健康的な生活習慣を身につけさせるために、児童への啓発とともに、学校・家庭・地域が連携を密にして取り組んでいきたい。  
 ・デジタル化に対応した授業作りを推進すると共に、学級及び学校閉鎖など不測の事態に備えて、即時に対応できるよう備えておく。  
 ・CRT調査をもとに個々の学力の把握をし、各学年・学団で身につけたい力を明確にし、系統立てて進めていく。